神成

発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢
（〒155-0031）　2-22-10
電話　代表03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月１回１日発行
購読料　１部80円
（会員の購読料は会費に含む）

2024
No.619
３月号

―大経綸―

大いなる神の力に依らずして
など救はめや此醜の世は
刈菰の乱れたる世を打切りて
正しき御代を打樹つるなり
眼開き破壊の裏に創造の
槌を揮はす神業見られよ

御光筆　**散花結実**（さんかけつじつ）

印首印　光明
落款　明位
落款印　弥勒聖代　地上天国

◎教団方針
信徒よ速やかに目覚めよ、
それは光を受け、邪を捨て、光を授け、
正に生きる事である

◎方針のみちしるべ
（一）みつめなおそう明主様の心
（二）つらぬきとおそう明主様の心
（三）教団綱領を尊び実践する
（四）信仰継承は家族と家庭円満から

神言霊

散花結実

地上天国は、だんだん時期が進むに従って具体的になっていくんです。それは世界の動きを良く注目すると分かります。人間の身体の病気ばかりでなく、世界の浄化があります。

今、われわれのほうは天国建設のほうの仕事をやっていますが、世界的には、大破壊の仕事をやっているのです。いかに破壊すべきや、という大仕掛けな計画をしている面もあるんです。破壊と創造です。これを世界でみると、創造されつつ、破壊されていくんです。

ちょうど花と同じで、花の髄が出かかって同時に花弁が散っていくんです。ですから花が散るほうが破壊で、髄ができるほうが創造のほうです。

そうして髄がだんだん大きくなっていく。やっぱり散花結実です。

彼岸の意味について

彼岸の時は、太陽が冬至と夏至の真ん中を回る時で、ちょうどいい時なんですね。このちょうどいいということが、天国、極楽になるのです。つまり、理想世界のことですね。彼方の岸というのは、「理想郷」の意味でしょうね。その時お墓参りをするということで、ちょうどいい時に先祖を祀るというわけで、これは理屈なしにいいことですね。

彼岸は、暑からず寒からず、ちょうど暑さ寒さの間になっている。それで暑さ寒さも彼岸から、と言います。こういう暑からず寒からずという世界が、伊都能売式で、これが最後の目的だという意味です。彼岸は彼方の岸ですから、その意味でできたものです。

（昭和二十六年頃）

明主様のいけばな　ツバキ、もも（白桃）

令和六年 立春祭・特別大祈願、二月祈願祭 おことば

立春の日から、いよいよ暦の上では、春になるわけでございます。

その前日は、節分でございまして、いろいろ世間では、節分の行事、豆まきなどの行事が行われているようでございます。これらの行事につきましては、古くからいろいろ言い伝え、いわれがあるわけでございますけれども、世間一般では、ただの一つの習慣として行われているむきもあるようでございます。けれども、この節分のあるいは、立春という日は、神様のほうからご覧になりますと、大変に重要な日であるということを、明主様から私達は教えていただいております。

この節分、立春という日は、一つの大きな神様のほうのお仕組におきましての転換期、一つの節になる日であると教えていただいております。

祭典で「おことば」を述べられる光守様

この節分、立春を一つの境といたしまして、だんだん霊界が明るくなっていく、だんだん地上天国、昼の世界に近づいていく、という節になっているということを教えて頂いています。非常に深いことは、中々私達には、わかりませんが、誰にでも一番よくわかることとして、だんだん霊界が明るくなってくると、悪いこと、間違ったことが、だんだんできなくなってくるということを、明主様は教えて下さっています。

だんだん善が栄える、いわば、善と悪とがはっきりと表れてきて、悪いことができない、非常にいい世の中にこれからなっていくということを、教えて頂いています。

今まで世の中には、大変人間を苦しめる悪がたくさんのさばっていたわけですが、そういう悪がだんだんのさばれなくなってくるということです。これは大変有難いことですが、けれどもしかし一面におきまして、そういう美しいい世の中にこれからなっていくわけですから、私達自身も、そういう美しい、いい世の中に、ふさわしい人間に一歩一歩近づいていかなければなりません。

明主様が、この立春という日は、神様の善悪を立て分けになられるお働きがだんだんはっきり表れてくる、そのちょうど節になる日になるわけでございます。ということです。ですから、これは大変私達にとっては喜ばしいことです。今までの歴史をかえりみてみますと、この世の中は、大変善人がいじめられて、悪人が大変多かったわけです。

それがいよいよこの神様のお目的であります地上天国、昼の世界にだんだん近づいてまいりますと、今度は、そういう悪にとっては恐ろしい事になるわけですけれども、善人にとっては、これから大変よい世の中になっていくわけです。しかし、一面において、そういういい世の中にふさわしい魂の人間に、私達自分自身もなっていくように努力していかなければいけないということでございます。

それと同時に、いろいろ今迄の正しいこと、正しくないことも、だんだんはっきりと現れてくるわけでございます。

自分がやっていることが、神様の御心に叶っているかどうかということを、常に反省していきなさいと、明主様は、何回もくり返し仰っています。

だんだん昼の時代が近づいてきているということは、いろいろ他の形でも神様は知らして下さっています。その一つの現れとして、こういうふうにして、示されたということを、明主様は仰ったわけです。昔から、いよいよ昼の時代、ミロクの世と申しますか、地上天国になると、梅の花が一度に開くというような、一つの言い伝えみたいなものがあるようです。こういうこととも関連いたしまして、これは神様がそのことを示されたというふうに仰っておられたわけで、ですから、これは非常におめでたいことになるわけです。

それから、人間の悪い事、あるいは間違ったことが、だんだんはっきりと表面に現れてくるということです。

人間は、とかく悪いことをする時には、これはばれないだろうと思ってするわけです。実際は、すぐわかる場合もありますが、長い目で見ると、それが結局、表面化してくるわけです。

その間の期間が、今までは、割にかかりましたので、つい人間は悪いことをしたほうが、どうも得だというような考えがあったのです。一月一日のお正月というのは、私達人間が、一つの暦の上で作った節でございまして、もちろんこれも一つの区切りの節にはなりますけれども、それとは別に神様のほうの大きな節になっているのが立春でございます。

私達は、一番誰にもわかることとして、この立春を境として、だんだん浄化が強くなってくる、神様の善悪を立て分けになられるお働きが、だんだんはっきりと、はっきりしてくるというふうに、明主様から教えていただいています。いよいよ霊界が明るくなって天国に近づいていきますと、今までのいろいろな人間の間違ったこと、悪いこと、かくしてきたことが表面に現れてくるのです。こちら関係も、世間一般のことも、ある意味では、目に見えない霊界の変化の現れということは申し上げられると思います。

けれども、これからは、神様が表で働かれるわけです。神様は人間一人一人の魂の奥底までみんな見通しておられるので、人間がいくらうまいことをやろうと思ってもうまくゆかないのです。これが、だんだん昼の時代になって、霊界が明るくなってまいりますと、間違ったことをしたり、悪いことをすれば、それがすぐ現れるようになるわけです。それでは、立春、節分がどういうふうに大切なのかというと、神様のほうのお仕組の一つの大きな節になっている日だということです。この立春と六月十五日の天啓祭という日が、神様のほうのちょうどお正月になるのです。

明主様が、多くの神言霊の中で、常におさとし下さっておられることの、まず第一は、いよいよ人類が、心から今迄の過ちを悔い改めるべき、裁きの時が近づいたということを知らせて下さる警告をして下さることであったと思うわけでございます。

そして、その後に地上天国、いわゆる真の文明世界、昼の時代が来るわけでございますが、そういう時期にいよいよなってきたということを知らせて下さったわけです。現実に、そういう世界が近づいて来ており、神様はそういう世界をこれから造り上げていかれるということを教えておられます。そして、自分はそういうことを一日も早く世界の人々に知らせる、そういう使命を神様から託され、それでこの世に出たんだということを、私達にお示しくださったわけでございます。

従いまして、私達人間一人一人は、一日も早く今までの過ちを心から悔い改めさせていただきまして、神様の御心に叶うように、これから努力させていただかなければと思うのです。

ところで、地上天国、よい世の中がこれから来るのは、大変嬉しい、喜ばしいわけですけれども、ただその前に、今まで私達人間がいろいろと気がつかない、でも間違ったことをしてきていることに対しての清算をしなければならないわけです。

今までの間違ったことによって、いろいろな〝ホコリ〟と申しますか、〝けがれ〟がたまっているわけです。これは霊体共にあるわけでございます。その汚れのお掃除が、これから行われるのです。ですから、一人一人の人間が、心から悔い改めて少しでも浄まらせていただいておけば、この昼の世界、地上天国に残していただけるということを仰っておられるわけでございます。

明主様は、ここで、旧約聖書の中のノアの箱舟の話を引用されたのです。この話は、皆さま、ご承知のことですが、大昔にやはり大変世の中が乱れた時代に神様が一度この世界をお掃除しようということで大洪水を起こされるわけです。その時に「いよいよこれから大洪水が起こるから、皆、〝箱舟〟を作って、その準備をしていなさい」ということをノアの兄弟を通じて知らされるわけです。けれども「そんな馬鹿なことがあるものか」と、それを皆はなかなか信じなかったのです。ある程度信じた人もいたわけですが、一向に雨が降らないものですから、途中で「何だ、そんなことはウソじゃないか」というように感じてしまったわけなのです。結局、最後に信じた人は、八人です。非常に少なかったのです。それで、結局その信じた者が救われて、それが今の白人の祖先だというような話があるわけです。明主様は、そのことを引用されておられるわけです。

明主様は、これについて、まやかしとか、だますとか、そういうことで仰っているのではないわけです。自分の今言っているこ↖

↙とは、決して〝ウソ〟ではない、中々こういうことは今までないことだから、信じられないかもしれないけれども、何とか、このことをわかってほしいと仰り、これからいい世の中が来るんで、それにふさわしい人間に、今からなるように、ここで心を改めてほしい、その準備をしてほしいということを、本当に魂の奥底から私達に仰って下さっているわけでございます。そのお気持ちが、こういう表現をして下さっているのだと思うのでございます。明主様のこのおことばの奥にある、本当に神様が一人でも多くの人間を救いたい、一人でも多くの人間が救われるようにという、その神様の御心を、このおことばの中から、私達はつかませていただきたいと思うわけでございます。

ノアの洪水のお話のように、私達は「おひかり様」をいただいております。いわばちょうど、その箱舟の作り方を神様から教えていただいているわけでございます。これから、少しでも、神様の御救いの御業のお手伝いのお許しをいただくということが、その箱舟を作らせていただくということになるわけだと思うのです。

※中継時のおことばと一部内容が異なるところがございますが、今回掲載している内容がもとになっております事、ご了承ください。

※ノアの方舟…旧約聖書創世記に出てくる舟。神話。神が人類の堕落を怒って起こした大洪水に際し、神の指示に従ってノアは箱形の大舟をつくる。世界をやり直す話。

特別寄稿

令和五年十二月二十九日に元教師福澤きよゑさん（旧松川教会）が帰幽されたました。（享年九十九歳）生前、光守様は事あるごとにお手紙を送られておりましたが、最後のお手紙を境顧問に託され、棺にお納めさせていただきました。

このたび、お手紙の内容と境顧問が心に感じた事を掲載させていただきます。

改めて、御霊様のご平安をお祈り申し上げます。

お手紙

福澤　きよゑ　様

あなたの笑顔を思い出しお手紙をつづりながらなつかしく思っております。

十二月二十九日の朝、男の声のような、女性の声かな?よくわかりませんでした。「行ってきます。」私は机で書き物をしていたので、びっくりして、姿勢をかえましたら、もう姿はありません。あれ、どなたかが、たしかに声をかけて下さったのに、おかしいなぁー。そこへ電話リンリン、二時間後かな?、受話器をとったらきよゑさん亡くなりました、の訃報。びっくり。あれ、先程の〝行ってきます〟は、きよゑさんだったの?私はただおどろき、ぼう然と椅子にすわったまま…。

すぐ御神前でご奉告、御礼と感謝の祈り、頭を下げたまま、祈りに祈らせて頂きました。有難うございます。

ご主人の好美先生は、信仰については大変厳しい方。きよゑさんは、いつも裏方に回って細かなやさしいお世話をなさり、私はよくその姿を見ていましたので、関心いたしました。日日お励み頂き有難うございました。

大神様、明主様の御心をいただかれての日々のご精進は、私の深く感謝しているところです。

教団内外を見ます時、直接、間接に私を助け励まして下さるのは、あなたが一番です。私の鏡です。この間も、あなたは私の鏡と申し上げました。笑っていらっしゃったわ。

永年にわたって、明主様の教えと浄霊によって、多くの信徒さん、未信徒さんに尽くされました。心からお稱(たた)え申し上げます。

あなたを霊界にお送りいたし、あなたのことを慕いつづけておられる信徒さんのことを考えますと、胸が痛みますよ。謹んで、きよゑさんの霊界でのご幸福をお祈り申し上げます。

季節ごとに、何かとお送り下さいましたこと、本当に有難うございました。心からご恵送に対し厚く御礼申し上げます。

きよゑさんに差し上げるお手紙です。ゆっくり読んでくださいませ。

大沼祐子

令和六年一月四日

徳の波紋

境　和之

光守様から託されました、福澤さん宛の最後の「手紙」を棺に納めさせて頂くという大任を果たすべく昨年末に帰幽された元教師福澤きよゑさんのお通夜に参列させて頂きました。

昨年十二月二十九日朝、光守様は私の顔を見るなり「あなた出かけたのでは?私の書斎に〝行ってきます〟と挨拶に来たじゃない。」と不思議そうに言うのです。予感通りその一時間後、二ケ月前に転倒して入院したままの福澤さんを毎日献身的に看病して下さっていた信徒さんからの訃報が届きました。福澤さんが別れの挨拶にみえたようです。

〝南無釈迦牟尼仏〟の読経の中で曹洞宗のしきたりにならい参列者全員で旅立ちの準備を丁寧に整えながらも私は光守様からの「手紙」をどのタイミングでどの場所に納めるかで気がいっぱいでした。もちろん事前に喪主である御長男に了承は頂いていたのですが、ご住職、参列者の視線が気になり年甲斐もなく時を図りかねていました。最後に一輪一輪、花を手向ける直前に御長男は「手紙」を納めるよう促して下さいました。私は当然、棺の脇に目立たぬように納めようしたところ、御長男はきよゑさんの両手の下に直接納めて下さったのです。思いもよらぬことでした。

ご住職のお話しにお釈迦様のお諭しがありました。〝人生の大半は思い通りにならないもの。〟転倒して病院に運ばれてからの二カ月間、きよゑさんにとっては不本意であったであろう様々な医療措置が取られ最後の旅立ちのセレモニーには天津祝詞も善言讃詞も無いことに多少の空虚感を抱いていた矢先の住職のお話でした。しかし、きよゑさんが積まれた徳の波紋からでしょう、信徒さんの粋なはからいで枕には『神成』が、ご住職と御長男のはからいで両手には光守様からの「手紙」が。

斎場を後に一刻も早くこの感動を光守様に伝えねばとの思いで自然とアクセルは強くなり、東京に戻り報告を終え、格別に美味いビールをいただきながら思い切って光守様にお願いしました。「出来る事であれば、きよゑさんの御骨の一部を下北沢にお連れして明主様の御前で天津祝詞、善言讃詞できよゑさんの御霊を労いましょう。」と。私もまたきよゑさんの徳の波紋の一部になったようです。翌朝、光守様は御長男に電話をかけた事は言うまでもありません。光守様もまた波紋を浴びたようです。貴重な経験をさせていただきました。

〝波紋〟で一つお話したい事があります。二月三日、この原稿を書き終え、節分祭に参拝させて頂きました。祭典終了後、東京教会のロビーでは教師、信徒さん達が十名以上集まり、ある企画の是非を問う話し合いがありました。遠巻きに見たのですが、感情をぶつけ合うような声が聞こえる白熱した話し合いでした。昨年『神成』に私の入信の挨拶文を掲載させていただきましたが、その中でその当時の教団の様子を、〝まるで穏やかな湾の中で漂う舵と動力を失った船のよう〟と表現しました。あれから一年、船は動力を取り戻し、波高い外洋に向けて舵を切ったようです。同じく昨年の『神成』で埼玉教会・出口さんの寄稿文に〝時代が変わっても守っていかなければならないことと同時に時に応じて変えていかなければならないことがある〟の一節がありました。教団はさざ波の穏やかな湾の中でこの議論を避けてきたようです。これからは様々な波を避けること無く経験しながら、明主様の御教えのもと、学び強くなり、人々に自然体で幸せの波紋を発せられる品格ある教団になりたいものです。

天国で明主様の御用にお仕えされますきよゑさん、これからも春風のような柔らかき波紋で光守様をお包み下さい。

ありがとうございました。

令和六年 節分祭／立春祭・特別大祈願、二月祈願祭

令和六年二月三日、年中の大きな節目の祭典でもある節分祭が、東京本部をはじめ、各布教拠点で執り行われ、東京本部では午前十時より厳粛に祭典が執り行われた。節分祭は夜の世界の罪穢れが精算される大祓いの祭典であることから特別に「神言」を奏上し、光守様の御浄霊では大光明様、明主様の御光による祓い清めの意をこめられ、いつもより長くお取次ぎされた。

翌日の二月四日にはめでたく、立春祭・特別大祈願、二月祈願祭が午前十時より東京本部から各布教拠点に中継を行い厳粛に執り行われた。

節分祭で「おことば」を述べられる光守様

この日は午後から全国信徒代表会が開催される事もあり各布教拠点の信徒代表が参拝、地方からの参拝者もあり、礼拝堂は多くの参拝者となった。祭典では光守様より代表役員、祭主の任命書に続き、新たに布教拠点での役職を賜った信徒に委嘱書が授与され、守護鈴『光鈴』が御下賜された。

光守様の「おことば」に続き、会長挨拶では立春祭を期して改めて責任役員と祭主が紹介され、特に祭主の戸塚大介氏は教団の霊統を受け継ぐ者であることが発表され、教団の新たな体制が伝えられた。

節分祭祝詞奏上

窪田秀男責任役員、滝澤幹雄信徒総代による玉串奉奠

参拝風景

御浄霊のお取次ぎをされる光守様

光守様のご浄霊日

三月三日(日)、十日(日)、十九日(火)
四月九日(火)、二十八日(日)
五月七日(火)、二十六日(日)

代表役員を拝命した山嵜明憲教師

輝霊光納斎殿参拝

祭主による玉串奉奠

守護鈴『光鈴』を賜る堀井厚央二長岡教会信徒代表

副光導所長を委嘱された遠藤誠氏

祭主を拝命した戸塚大介教師

VEGETABLE OIL INK 植物油インキを使用しています。